

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年5月24日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03495

研究課題名（和文）歴史的事象の特性を基盤とした社会科における必修単元「シティズンシップ」の開発研究

研究課題名（英文）The Development of the Compulsory Unit Citizenship in Social Studies Based on the Characteristics of Historical Events

研究代表者

戸田 善治（Toda, Yoshiharu）

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：50207586

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,200,000円

研究成果の概要（和文）：シティズンシップの育成に対して歴史学習はいかなる貢献が可能か、というシティズンシップと歴史学習の関係性を逆転させ、歴史的事象の特性を生かした歴史学習で育成可能なシティズンシップを歴史上のある社会集団の一員としてのメンバーシップであると明確化した。
歴史学習だからこそ可能となるシティズンシップを育成する小単元群を開発するとともに、開発した小単元群を小・中・高校の社会系教科の最終単元あるいは歴史学習の最終単元として位置づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義として、以下の4点を挙げるができる。第1に、歴史学習でこそ育成できるシティズンシップを明確化した点である。第2に、歴史学習だからこそ可能となるシティズンシップ育成方法論を提案している点である。第3に、上記第1・第2の学術的意義を具体化した必修単元「シティズンシップ」を作成し、小・中・高校の社会系教科内における最終単元に位置づけることを提案した点である。そして第4に、社会参画型シティズンシップ論を中核概念とすることで社会科から切り捨てられた観のあった歴史学習を社会科内に位置づける論理を構築することができた点である。

研究成果の概要（英文）： In this research, we aimed to clarify the kind of “citizenship” that can be cultivated through historical education, making full use of the characteristics of historical events by reversing the relationship between “citizenship” and historical education, and asking instead what historical education can contribute to the development of “citizenship.”

研究分野：社会科教育学

キーワード：シティズンシップ教育 歴史学習 歴史総合

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国のシティズンシップ教育研究に対して、2つの問題点を指摘できる。第1の問題点は、既存の社会科が担ってきた社会認識形成とシティズンシップ育成の関係が不明確な点である。シティズンシップ教育研究者は、社会科との相違点を強調するためか、自身の論理における社会認識形成の論理が存在しているにもかかわらず、それを強調してこなかった。そこで平成24～26年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))「社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化およびその再構築モデルの開発研究」において、千葉大学教育学部附属小・中学校および岐阜大学教育学部附属小学校の教諭を研究協力者として迎え、社会認識を基盤としたシティズンシップ育成モデル及びそれに基づく実験授業を行い、モデルの有効性と問題点を解明し、シティズンシップ教育推進論者とともに共同で目指すべき改革の方向性を示した。シティズンシップ教育研究の第2の問題点は、社会科の統合性・総合性を説明するシティズンシップ概念が、社会科を解体する論理にもなり得ている点である。歴史的事象や地理的事象、そして現代的事象を教育内容とする社会科は、その誕生以来、解体論にさらされてきた。その中でも特に歴史独立論は、実証主義歴史学、マルクス主義、ナショナリズム、国民教養主義など、様々な立場から主張されてきた。とくにイデオロギー対立の時代には、社会科は社会認識の科学性とシティズンシップの民主性という二つの論理でそれらに抗してきた。その代表が、森分孝治氏の科学的探求社会科論、小原友行氏の歴史人物学習論、溝口和宏氏の歴史学習による開かれた価値観形成論であった。しかしながら、シティズンシップ教育論者のいうシティズンシップ概念では社会科の統合性・総合性を説明することができず、むしろ、それが歴史切り捨て論の中核概念ともなっている。

本研究は、従来のシティズンシップ教育研究が、その論理構造ゆえに抱えてきた第二の問題点に対して、社会認識教育の視点からの改革の方向性を示すとともに、社会科の教科構造の見直しを、歴史学習に焦点をあてて行うものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高校新科目「歴史総合」を視野に入れ、日本にシティズンシップ教育研究で欠落していた歴史学習との親和性に注目し、歴史教材の特性を基盤とした小・中・高校社会系教科におけるシティズンシップ育成モデルおよび必修単元「シティズンシップ」の開発を行うとともに、その研究成果を日本の教育学界や歴史学会、諸外国の教育学界での発表を行い、諸外国の学会誌への英文論文投稿を行うことである。

3. 研究の方法

具体的には以下のような研究方法を採用した。

- ・我が国及び諸外国の歴史教育及びシティズンシップ教育に関する実態調査を行うとともに、諸外国の研究者、学校教員に対する聞き取り調査を行なう。
- ・シティズンシップの育成に対して歴史学習はいかなる貢献が可能か、というシティズンシップと歴史学習の関係性を逆転させ、歴史的事象の特性を生かした歴史学習で育成可能なシティズンシップの実体を明確化する。
- ・歴史学習だからこそ可能となるシティズンシップを育成する単元を開発する。
- ・開発した小単元群を小・中・高校の教育課程内のどこに位置づけるかを検討する。
- ・研究成果を日本の教育学界、歴史学会で発表するとともに、イギリスあるいはアメリカの教育学界での発表を行い、学会誌への英文論文投稿を行う。

4. 研究成果

具体的には以下のような研究成果が得られた。

- ・フランスおよびイギリスの小・中・高校にて実態調査を行うとともに、歴史教育担当教員、シティズンシップ教育担当教員への聞き取り調査を行った。また、The 12th International CitizED Conference に参加し、諸外国のシティズンシップ教育に関する資料収集および研究者と意見交換を行った。
- ・本研究では、あるポリスの一員としての、封建的身分制社会のある身分の一員としての、あるアソシエーションの一員としての、国民国家の一員としてのメンバーシップなど、「ある時代のある社会集団の一員としてのメンバーシップ」を、歴史学習でこそ育成可能なシティズンシップとして設定した。また、「ある時代のある社会集団の一員としてのメンバーシップ」を育成する方法論は、それぞれの時代や社会に即したメンバーシップを、その成立過程に従って、その変質過程に従って、その崩壊過程に従って学習するものとし、この育成方法論を、メンバーシップを社会的構築物としてとらえるための方法論と呼んだ。
- ・開発した単元全体を必修単元「シティズンシップ」と名付けるとともに、以下に示した選択小単元群を開発した。また、必修単元「シティズンシップ」を小・中・高校の社会系教科内における最終単元に位置づけることを提案した。

導入 「わたしたちとは誰か 自分が所属する社会集団とそのメンバーシップ」

小単元群

小単元「武士身分とは何か - 最後の仇討ち - 」

小単元「大日本帝国憲法下での有権者とは誰か - 選挙権付与の条件を考える - 」

小単元「ギリシア人とは誰か - ギリシア人自身による概念変容とマケドニア王家の喧伝 - 」

小単元「多元共存社会の模索と実現 - 清の東部ユーラシア統治を通して - 」

終結 「歴史から学ぶ私たち メンバーシップについて考える 」

- ・研究成果の理論部分は The 13th International CitizED Conference にて発表し、開発した単元に関しては、日本社会科教育学会第 68 回全国研究大会にて発表した。
- ・研究成果は日本語版および英語版を作成するとともに、理論部分は、International Social Studies Association の機関誌である “Journal of Social Studies Education in Asia” (令和元年 9 月締め切り) に投稿する。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 1 件)

田中伸・辻本諭・前田佳洋・矢島徳宗、教師・歴史学者・社会科教育学者が協働した授業のゲートキーピング 歴史学の思考・方法を活用した解釈を主体とする歴史教育実践、岐阜大学教育学部研究紀要、67 巻第 1 号、pp.41-53、2018、査読無

[学会発表](計 4 件)

戸田善治・竹内裕一・澤田典子・小関悠一郎・椎名和宏、歴史的事象の特性を基盤とした社会科における必修単元「シティズンシップ」の開発 小単元「武士身分とは何か 最後の仇討ち」および小単元「ギリシア人とは誰か ギリシア人自身による概念変容とマケドニア王家の喧伝」を事例として、日本社会科教育学会第 68 回全国研究大会、2018

三浦朋子・今津敏晃・青山治世、歴史的事象から迫る選挙権を持つことの意味と条件 高校「公共」の単元開発「選挙権付与の基準を考える」を事例として、日本社会科教育学会第 68 回全国研究大会、2018

辻本諭・田中伸・前田佳洋・矢島徳宗、歴史の捉え方 アイルランドの歴史を題材にして、近世イギリス史研究会 2017 年度例会、2017 年

Yoshiharu Toda・Tomoko Miura・Kazuhiro Shiina、The Teaching Citizenship by using the historical subject matters、The 13th International CitizED Conference、2017

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：竹内 裕一

ローマ字氏名：TAKEUCHI Hirokazu

所属研究機関名：千葉大学

部局名：教育学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 00216855

研究分担者氏名：小関 悠一郎

ローマ字氏名：KOSEKI Yuichiro

所属研究機関名：千葉大学

部局名：教育学部

職名：准教授

研究者番号(8桁): 20636071

研究分担者氏名：澤田 典子

ローマ字氏名：SAWADA Noriko

所属研究機関名：千葉大学

部局名：教育学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 50311650

研究分担者氏名：辻本 諭

ローマ字氏名：TSUJIMOTO Satoshi

所属研究機関名：岐阜大学

部局名：教育学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：50706934

研究分担者氏名：今津 敏晃

ローマ字氏名：IMAZU Toshiaki

所属研究機関名：亜細亜大学

部局名：法学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：60449973

研究分担者氏名：青山 治世

ローマ字氏名：AOYAMA Harutoshi

所属研究機関名：亜細亜大学

部局名：国際関係学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：60634285

研究分担者氏名：田中 伸

ローマ字氏名：TANAKA Noboru

所属研究機関名：岐阜大学

部局名：教育学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：70508465

研究分担者氏名：三浦 朋子

ローマ字氏名：MIURA Tomoko

所属研究機関名：亜細亜大学

部局名：法学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：70586479

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。